

2021年度 日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科／サウンドクリエイターコース											
ベーシックレッスン1_a											
対象	1 年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	田熊 知存			実務経験	有	職種	アレンジャー				
授業概要											
基本的なDAWソフト操作からサウンドメイキングまで修得し、またエフェクト効果などを習得することにより其々の作品のクオリティを上げていく事を目的とする。トータルバランスを視野に入れたサウンドメイキングを各学生が制作し2年次での卒業制作・デビューに向けての準備を行う。											
到達目標											
音楽制作に必要な基本的な操作・知識・技術を学ぶ。1年次は主に4リズムセクションへのサウンド効果の技術・知識の習得を目標とする。実際の生楽器にも触れることにより、DTMにおける作業にリアリティを持たせる。生楽器の音を知ることにより、DAW上で施すエフェクト処理に大きな違いが生れることを意識づける											
授業方法											
DAWの操作方法、基本概念、基本的な（ベーシックな）エフェクトの使い方をCubaseを使用して学んでいく。授業前半は講義・解説、後半はそれを実際にPCを使い実践していくスタイルで行う。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
スキルに個人差があるので、個別対応も行う。不明な点はその場で質問すること。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	音楽制作の実情と何が必要かを把握する										
第2回	基本操作法、PCソフト立ち上げ・保存方法										
第3回	音色の設定、トラック制作										
第4回	ソフトウェアの各機能の理解・操作法										
第5回	入力方法、パターン										
第6回	コンプレッサー、エフェクト効果										

2021年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／サウンドクリエイターコース	
ベーシックレッスン1_a	
第7回	入力方法、パターン
第8回	コンプレッサー、エフェクト効果
第9回	入力方法、パターン
第10回	コンプレッサー、エフェクト効果
第11回	入力方法、パターン
第12回	コンプレッサー、エフェクト効果
第13回	音の基礎知識、サンプリング周波数、ビットレート
第14回	音の基礎知識、サンプリング周波数、ビットレート
第15回	作品提出

2021年度 日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科／サウンドクリエイターコース											
ベーシックレッスン1_b											
対象	1 年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	田熊 知存			実務経験	有	職種	アレンジャー				
授業概要											
譜面と言うツールを用いて他人と意思を疎通させる能力を身につける。具体的には 1) 譜面を用いて様々な理論を学ぶための準備を行う。 2) 15回までの学習過程で、結局は基礎的な楽典を学ぶことになる。大局的な視点で音楽を捉えられるようになる。 3) 4 rhythm section に関するオーケストレーション・スコアリングを学ぶことにより、生・打ち込みに関わらず、アレンジング全般の基礎部分を身につける。											
到達目標											
1) 苦勞せずにノートを取る事が出来るレベルの読譜力と写譜力。 2) 根本的な仕組みを理解した上での正しいリズム表記。 3) 4 rhythm に関して、楽器の特性に関する充分な理解。 4) 4 rhythm (+ lead 楽器) セッティングでのスコア(およびパート譜)作成。											
授業方法											
1~15回で記譜法、16~30回で 4 rhythm アレンジを扱う。記譜法を学びつつ、ポピュラー音楽用語全般を広くレビューして行く。授業形態は講義中心となるが、課題量が多めなので、講師二人体制でそれらをチェックすることにより、徹底的な理解を目指す。後半アレンジセッションでは、各楽器約1回の講義の後、最低1週はその楽器に関する課題実習の時間を取り、その中で楽器の特性とスコアリングに対する理解を個別に指導して行く。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
前期・後期とも単に「譜面が読める・書ける」ことを目標としているわけではなく、「読み手に余計な推理力を働かせることのない」譜面を作成することを常に念頭に置く。そのためには楽器に関する知識も必要であり、音楽理論も必要になってくる。譜面を書くことで「この先自分は何を学ぶべきか」が、学生一人ひとりに意識付けられるような指導を心がける。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	大雑把に譜面の表すものを把握する										
第2回	基本的な音符・休符の表記と意味を習得										
第3回	各種変化記号・enharmonic・circle of 5th・調号と転調の記譜について理解する										
第4回	pulse pattern・小節線・pick up・clef change・拍子・meter change の記譜について理解する										
第5回	meter change に伴う tempo change・スペーシング・tempo marking について理解する										
第6回	rhythm の分類と記譜・flag/beam の記譜法・各種 time における pulse 間の強弱関係を理解する										

2021年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／サウンドクリエイターコース	
ベーシックレッスン1_b	
第7回	第6回の続き
第8回	imaginary barline・primary および secondary beam・syncopation 表記・tuplet について理解する
第9回	第8回の続き
第10回	休符・tie・付点の記譜を理解する
第11回	voicing 全般・divisi・accidental 配置ルール・octave sign・col 表記について理解する
第12回	fermata・pause・長休符・各種リピート記号について理解する
第13回	各種 dynamics 表記について理解する
第14回	各種 articulation 表記について理解する
第15回	中間課題の最終チェック

2021年度 日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科／サウンドクリエイターコース											
ベーシックレッスン1_c											
対象	1 年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	甲原 圭			実務経験	有	職種	アレンジャー				
授業概要											
音楽基礎クラス、音楽周辺クラスでの修得事項を統合し、作・編曲、トラック制作に必要なあらゆる事項を総合的に理解し分析することを目的とする。 1年次は4リズムセクションに関して徹底的に分析することにより修了制作における基礎を築くことになる。											
到達目標											
各セクションの分析をすることによりトータルな（4リズムセクションの）サウンドを構築できるようにすることを目指す。 あらゆるジャンルにおける分析を行うことにより、独自のトラックを制作できるようになることを目標とする。											
授業方法											
基本情報を基に「それらの情報が音楽を形成する上でどのように機能しているか？」を楽器の実音体験、アンサンブル、他あらゆる観点から体感する。 音楽情報、音楽周辺情報、ノートテイクによる統合と活用。 レポート提出、プレゼンテーションによる具体的な実践も含まれる。											
成績評価方法											
試験・課題 70% 課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価 成果発表 20% 授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価 平常点 10% 積極的な姿勢											
履修上の注意											
ノートの取り方を工夫する。毎回のノート記録を累積して情報の整理を行う。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	ノートの取り方、文書作成、メール文書、レポート作成方法										
第2回	振動・高さ・音程の組み合わせ										
第3回	倍音・コード種類										
第4回	Tempo、Beat Pulse										
第5回	Rhythm、Groove										
第6回	作曲と編曲、現代の音楽の形について										

2021年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／サウンドクリエイターコース	
ベーシックレッスン1_c	
第7回	Composition、Melody writing、Audio collectiveについて
第8回	モノラルとステレオ
第9回	マルチチャンネル、マルチトラック
第10回	DAWの利点と弱点
第11回	距離感の記録
第12回	距離感の操作
第13回	アイディアをどう伝えるか？ストーリーをどうやって作るのか？
第14回	音楽資料の整理とは？
第15回	ノートをまとめ提出

2021年度 日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科／サウンドクリエイターコース											
ベーシックレッスン1_d											
対象	1 年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	谷村 庸平			実務経験	有	職種	アレンジャー				
授業概要											
現在の音楽制作において、作曲家はメロディの制作だけにとどまらず、DAWソフトを使用した完成品での納品を求められるケースが多く見受けられる。その制作過程において、自身や外部ミュージシャンに依頼をし生楽器の演奏を録音することは必須条件となっている。また録音は外部のスタジオにとどまらず、自宅の制作環境でも多く行われている。そして、そのどちらにおいても同様の高いクオリティの作品を求められるケースは少なくなっている。この授業を通し、楽器の特性や録音方法、また、外部スタジオで最も多く導入されているProToolsへのデータコンバートの方法など極めて実践的なアプローチを習得することを目的とする。											
到達目標											
毎回の講義、録音実習を通して、録音に使用するマイクの種類や特性を学び、録音スタジオでのルーティングを理解をする。また、各自でセッティングをし、DAWソフトウェア（Cubase・ProTools）を使用し、楽器に対して適切な録音を行えるようにする。DAWでの録音作業と並行してオーディオファイルについても理解を深め、最終的には録音したオーディオファイルの編集、それらを用いたラフミックスの作成までを行えるようになることを目標とする。											
授業方法											
録音実習では、DAW教室でのナレーション、ボーカル、ギター、ベース等楽器のレコーディングを経験する。 DAWを使用した演習では、学生が録音したオーディオファイルを含め、DAW上で行うオーディオ編集、エフェクト処理等、オーディオファイルに関連する様々な事項を学びます。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
授業の際は筆記用具、ノート（五線紙もあることが望ましい）、データを記録する外付けHDD（SSD）、ヘッドフォン（必要に応じてミニステレオ標準プラグの変換）を毎回用意すること。毎回の授業内容はノートに採り、自身で繰り返し確認できるようにする。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	SCR教室にあるPCの取り扱いについて。ログインID・パスワード、初期設定などを理解する										
第2回	オーディオファイルの理解、およびサンプリングレート、ビットレートについて理解する										
第3回	ダイナミックマイク・コンデンサマイクの取り扱い、および特性を理解する										
第4回	録音におけるルーティングを理解する										
第5回	モノラルトラックを作成し、入力チャンネルの確認および録音再生を行う										
第6回	DAW教室のルーティングを理解し、回線作りを行う。また適正な録音レベルを理解する										

2021年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／サウンドクリエイターコース	
ベーシックレッスン1_d	
第7回	オーディオトラックの編集作業を理解する
第8回	ダイナミクス系、空間系エフェクトの違いを理解し、適切なDAW内のルーティングを行う
第9回	その他の特殊なエフェクトについて理解する
第10回	Cubaseにオーディオファイルをインポートする方法を理解する
第11回	マイクを2本ステレオで使用し、適正な録音レベルでアコースティックギターの録音を行う
第12回	SMFファイルの構成を理解する
第13回	SMFファイルの必要性を理解する
第14回	各自指定されたマイクを選択し、ボーカルレコーディングを想定しセッティングを行う
第15回	Cubaseを使用し、オーディオトラックの編集、エフェクトの扱いを復習する